



### '66 HURST "HEMI UNDER GLASS" (HIGHWAY 61 1:18)

有名なエキジビション・ドラッグマシン。

NHRAのエキジビションカー、ハーストが製作したHEMIアンダーグラスを紹介しよう。このモデルは88年製プラモデル・バリエーションカーをベースに製作されたもので、その名のとおり露出した大きなリアウィンドウの下にレース用にキティファイされた426HEMIを搭載。カウチの隙間から大きくワイヤーし、その裏にウォーター・マニを突き進む。アトラクション・ドラッグレーサーである。実車はカリフォルニア州にあるNHRAミュージアムに展示されているが、こうして細部に至るまでリアルに作り込まれたモデルカーを手に、安心感をも感じないのでは。

### SOX & MARTIN '71 PLYMOUTH BARRACUDA 'CUDA "THE BOSS" (ERTL 1:18)

スーパーストックからプロストックの時代にもなると、S&Mは健在ナリ。

デトロイトがその威風凛々を醸成し続けてきたトヨッキーなスーパーストックも、1969年の開幕のシーズンとなった。しかし、だからと言ってNHRAのレーシングが衰えを見せたというわけではない。東方を支配したV8パワー・ウォーズがエスカレートして、もはやレースのためだけに特別に製造されたスーパーストックでなくとも、その実力と性能を兼ね備えたモデルが数多く登場し、数多く存在したということもあるのだ。そして、名のあるレーシングチームを中心に数えられるプロストック・クラスがスタートし、ますますストリップは熱く盛り上がる。写真のモデルは、71年ハイロー・ソックスがドライブしたグッダのプロストックマシン、真鍮製されたリアド・オフロードの下には、トネル・ラムに搭載されたスーパーセットとレース用の426HEMIが置かれている。



### SOX & MARTIN '67 PLYMOUTH BELVEDERE GTX "THE BOSS" (SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

MOPARマッスルの看板車だった昔、白、青のこのマシン。

ドラッグレーサーのロー・ソックスと、彼のレーシング・ビジネス・パートナーであるパディ・マーチンの名が、その名前でもよく知られる。ダッジのランディと並び、このプレミアムのソックスも、黄金時代のストリップでも活躍していたドライバーだった。ソックス&マーチンのトレードマークは、このトリコロールカラーのボディ。この40年製ベルベデアGTXは、ほとんどストックのままの状態で550クラスに出走した。



### '71 PLYMOUTH BARRACUDA 'CUDA 426HEMI (ERTL AUTHENTIC 1:18)

71年、マッスル・エッジ最晩年のウルトラ・レア・HEMIクーガ!!

HEMIクーガは現在MOPARマッスルの中でも特に貴重なコレクタブルカーとして扱われている。レア度においては71年型が最も高く、生産数も極めて少ない。さらにこのモデルはビル・スティーブ・グリップ(MT)がドライブしたクーベという点で、50台しか生産されなかった仕様という点も、さらに希少性を高めている。MT専用エンジンは強化された。廃車に準じ込まないクルマだからこそ、こうしてテーブルの上で家庭用止められたいとも思えない。



### '69 CHEVROLET CAMARO "YENKO" SC/427 (GMP 1:18)

イェンコとしては最もメジャーな存在でも、アブナーにウルトラ・レアですから。

こちらは同じイェンコ・カマロでも69年型。一般にイェンコ・カマロといえばこの69年型カマロを指す場合がほとんどかもしれない。このモデルが69年の文字がボディに示され、正確にはその名称もYENKO SC/427となる。搭載する427cuinV8は直前同種コルベットに搭載されていた425hpのL72がベース。マシン製FMTC種はソリッド・バルブリアクター、そしてAT仕様はハイドラリック・バルブリアクターと区別されてはいるが、前者は約40hpほどパワーアップが施されたという。ちなみにMTは4速フルスレスのM21、ATはハースト製デュアル・ゲート・シフター付きのターボ・ハイドラマチック (3速) だ。前者が171台、後者が20台、計201台が製造されたという記録が残されている。なお、この1:18スケールモデルは、タイヤ&ホイールが現代的なアフターマーケット・パーツに変更された仕様となっている。

### BILL JENKINS'S '68 CHEVROLET CAMARO "GRUMPY'S TOY" (SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

シェビーのプライドを背負い、426HEMIに敢然と立ち向かったマシン。

ビル・ジェンキンスがドライブしたドラッグレース・マシンの中でも、最も有名なのが「グランビー・ズ・トイ」という名前が付けられたこの68年型カマロのプロストック・マシン。ちなみにグランビーはジェンキンス自身の愛称であり、このマシンは彼のオネネという別称、エンジン・ラム・ビルドされた427cuinV8で、この1:18スケールモデルはトネル・ラムに搭載されたスーパーセットというディテールまでしっかりと再現している。



# GENERAL MOTORS



### '68 CHEVROLET CAMARO "YENKO" SS 427 (SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

COPOカマロと言えば、まずは出てくるこの名前。

60年代中期にCOPOで製造したレーシング・ドライバーであり、ペンシルバニアのシボレー・ディーラーの経営者でもあったドナルド・ペン・イェンコ。このモデルは、そんな名が響くイェンコ・スーパーカー・inc.からリリースされたスーパーカー・シリーズを代表する1台で、68年型カマロにコルベット用の427cuinV8をインストールし、それに伴って各部にキティファイを施したエンジン584HPである。この時代のシボレーには、このようにメーカーが認めたスーパーカーモデルを製造するハイパフォーマンス・ディーラーが数多く存在した。その中でもイェンコは広く知られる存在であり、現在ではその名でモデルがウルトラ・レア・マッスルとして扱われている。それらは当時盛り上っていたドラッグレースへの参加を意図して製造されたと考えられている。もちろんストリートカーとしても人気が高く、最近ではコレクターカーとしての評価も高まっている。このスケールモデルはそのディテールをリアルに伝えてくれるが、高圧電圧の427ならはハイパフォーマンスを兼ねないのが残念でならない。

